

豊 中 市

阪神・淡路大震災10周年事業と
 豊中市における自主防災会の取組について



発表部会

発表部会は、式典の後9名の方に震災の教訓について語っていただきました。発表された内容は、冊子として完成させました。

展示部会

展示部会は防災関係機関や市の関係部局がそれぞれの防災の取組についてパネル展示等を行い、起震車の体験や災害対応車輛の展示も行われました。

阪神・淡路大震災10周年事業

阪神・淡路大震災から10年が経過しました。豊中市では、震災の教訓を風化させず伝承することにより、今後発生する震災に備えようと、阪神・淡路大震災10周年事業を1月16日（日）に市立アクア文化ホール等で展開しました。

約70の組織に協力をいただいて実施することになり、実行委員会や作業部会等の議論の中でお互いを理解し協力体制ができあがっていきました。このことが災害時の協働に結びつくことになると確信しています。

事業は、式典と、発表部会、展示部会、炊出し部会の3部会構成で実施しました。式典ではピアニスト瀬田敦子さんが鎮魂歌として「ラ・カンパネラ」を演奏された後、老人クラブ代表の二人が「自分たちの経験や学んだことを子供や孫たちに伝えます。」と誓い、これに対して市内の小学生（10歳）二人が「お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの話聞き自分たちも勉強していきます。」と誓って震災の教訓を伝承することを訴えました。つづいてピアノ演奏「ジョンカラ」で力強く生きていく姿が表現されました。



炊出し部会

炊出し部会では、アルファー化米とみそ汁の炊き出しが自主防災会やボランティア団体等によって運営されました。



事業の成果

事前の準備から当日の設営撤収には多くの市民の参加・協力をいただき、事業を展開することができました。10年が経過して記憶から遠ざかっているが、次の震災には確実に近づいているという認識をあらたに、行政、防災関係機関そして市民一人ひとりにもう一度備えについて考える機会になりました。

自主防災会

自主防災会は、地域での防災力の担い手として期待される組織であり、被災者の最も近くで活動するという最大の利点を十分発揮していただくために、研修や訓練が必要になります。

組織化促進

豊中市では、自主防災会の活動による防災や減災の効果が非常に大きいことから、自主防災活動の組織化を促進することにしました。その際以下の点に留意して啓発を行いました。

- ① 組織化し、活動の充実強化を行うことを重点目標とする。
- ② 地元に入って説明を行うことが必要であるから、土曜・日曜・平日の夜間でも対応する。
- ③ いろいろな組織形態に合った活動内容が提案できるよう、個別基準で対応する。
- ④ 結成後の活動内容について、最初に自分たちが被災者にならないような準備をすることを訴



え、災害は自分の事との認識からスタートし、年に1回の研修と訓練から始めましょうと、説明する。

この1年間で自主防災会の組織化が飛躍的に進みましたが、物的財政的支援はなく、手作りの組織であることから、活動内容についても個別にそれぞれの組織力や地域事情にあったプランを作り上げていくことは容易ではありませんでした。しかし、個別に顔を合わせて相談しながら進める方法はお互いをよく理解できる機会にもなり、更に自主防災リーダーとの信頼関係を築くことができ、今後の地道な活動が期待されるところです。

地域防災のリーダーを養成するため『防災まちづくり講座』を開き、リーダーの養成も進めています。受講者が地域でリーダーとして自主防災会を牽引し、災害が発生した場合には効率的活動が展開できるようになってもらいたいと願っています。

